

1 単元 おじいちゃん、おばあちゃんとふれあい隊

2 指導の構想

【何ができるようになるか】(単元の目標)

「自分を高める」

・高齢者とのふれあいを振り返り、自分の成長について気づき、どのように生かしていくか考えることができる。(自分を発揮する力)

「人とよりよく関わる」

・高齢者とのふれあいを通して、温かい心や知恵を学び、感謝の気持ちをもつことができる。(他者意識)

【何を学ぶか】(教材の価値)

(探究課題)

ふれあいスクールでの交流を通して、お年寄りに喜んでもらえるように、自分たちができるよりよい交流のしかたを探究する。

本単元は、久山町の福祉事業の一つであるふれあいスクールについて知り、高齢者との交流を通して、自分を高めたり、人とよりよく関わったりする力を高めるものである。

主な学習内容は、高齢者に喜んでもらうにはどのような交流をすればよいかという目標を立て、お年寄りの立場に寄り添い、お年寄りの個性に合わせて、その関わり方や内容を工夫し、グループで学習を進める。このことは、自他を尊重し、ともに生き、伸びようとする子どもを育てる上で大変意義深いと考える。

【実施するためには何が必要か】(人・もの)

・社会福祉協議会との連携

【道徳との関連】

A-(4)個性の伸長

「世界一美しい体そうをめざして」

【どのようにして学ぶか】

総合の単元の流れ [単元計画 (45時間)]

(1) 目標をもつ (7時間)

まず、赤い羽根募金のキャッチフレーズ作りから、赤い羽根募金が久山町の様々なところで役立っていることを福祉協議会の方から聞く。そこで、募金以外で自分たちにできることはないかという課題をもち、ふれあいスクールとの関わりについて探究課題をもつ。

(2) 実践する (25時間) 【本時含む】

次に、ふれあいスクールのお年寄りとの交流の方法について考え、計画を立てる。お年寄りに喜んでもらえるような交流をすることを目標にし、グループに分かれて、交流の内容や方法を自分たちで工夫して発展させていく。

(3) 振り返る (13時間)

最後に、お年寄りとの交流を振り返り、交流の経験から学んだことや気づいたこと、これからの生活に生かしていきたいことについてグループ発表し、自分の成長について考える。また、交流で学んだことを新聞に表現し、地域に発信する。

【児童の実態】

本学級の児童は、毎年学校で行っている赤い羽根共同募金に積極的に関わってきた。また、募金の使われ方の一つとして、「赤い羽根」と記されたプランターが置かれ、通る人たちを明るい気持ちにしてくれるなど、募金がみんなのために役立っていることも知っている。今回、赤い羽根共同募金のキャッチフレーズを作ったことをきっかけに、自分達も何かできることをしたいという思いが高まった。子ども達は、介護予防の活動である「ふれあいスクール」のお年寄りとの交流を通して、多様な生き方にふれ、コミュニケーション力を高め、高齢者に対する敬意や思いやりの心をもつことができるようにさせ、自分の成長を実感させたい。


3 本時

(1) 目標

- お年寄りとの1回目の交流を振り返り、2回目の交流について主体的に考えることができる。

(2) 準備 ①学習プリント ②動画・写真

(3) 展開

過程	学習活動・児童の反応	指導の手立て(○)と評価(◇)
導入 5分	<p>1 これまでの学習を振り返り、本時学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">(めあて) もっとお年寄りに喜んでもらえる交流を考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題の場면을想起させるために、動画や写真で学習を想起させる。 ○ お年寄りから届いたプロフィールをもとに、各グループで交流をしたことを振り返らせる。
展開 30分	<p>2 ふれあいスクールのお年寄りとの1回目の交流を通して、学んだことについて話し合う。</p> <p>【1回目の交流を振り返って】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題 ・お年寄りの様子 <p>3 もっと喜んでもらえる交流について考え、学習プリントに書く。</p> <p>【2回目の交流にむけて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りとの関わり方 ・グループでの発表の児童の反応とそのわけ ・グループで協力し合うこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1回目の交流がどうだったか、とらえられるように、自己評価とお年寄りのアンケートを参考に、振り返らせる。 ○ 次の交流をよりよいものにするために、お年寄りのアンケートをもとに内容を考えさせる。 ○ 2回目の交流で主体的に活動できるようにするために、自分がどのようにお年寄りに関わっていくのか、また、どのような発表をすればより喜んでもらえるのか、グループの協力の観点で学習プリントに書かせる。
終末 10分	<p>4 2回目の交流について、考えたことを発表する。</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>○○さんは、わたしと同じで、ペットを飼っていると言っていたので、今度はもう少し詳しく話を聞いて盛り上がりたいです。今度はグループで、「まっかな秋」を歌ったらよいと思います。そのわけは、この前、「ふるさと」を歌ったとき、○○さんが、とても喜んでくれたからです。○○さんが喜んでくれたら、わたしも嬉しくなりました。</p> <p>次も、みんなでアイデアを出したりアドバイスし合ったりして、交流を成功させたいです。</p> </div>  <p>5 次時の活動を確認し、見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2回目の交流に向けて、意欲や期待感、連帯感をもたせるために、グループ内で発表させる。 ○ 全体の学びを共有するために、自分を高めたり、人とよりよく関わったりする力を高めるという観点で本時の学習をまとめさせる。 ◇ 自分自身の高まり、人とよりよく関わる力の高まりが実感できたか。 〈学習プリント分析〉